



＜吹田市後援＞ 吹田市長と本音でトーク！
 ～子育てママ&パパ With 市長～
 in 夢つながり未来館 ゆいぴあ 実施報告

2015年9月10日（木）午前10時～11時30分。 吹田市立夢つながり未来館 1階ゆいぴあにて、「吹田市長と本音でトーク！～子育てママ&パパ With 市長～」を開催しました。5月に就任された後藤市長と吹田市民が本音で語り合い、もっと子育てしやすいマチにするために必要なことを考えました。

子ども向けのプレイスペースをお借りして、皆で地べたに腰を下ろしてのざっくばらんな座談会ムード。コーディネーターには、茨木市市政顧問の辻由起子さん（保育士、社会福祉士）をお迎えしました。トークに参加した吹田市民の皆さんは、専業主婦から子育て支援のプロまで、幅広い現役の子育て世代ばかりです。現場ならではのリアルなエピソードやご意見、それに対する市長の真摯なお考えを伺い、とても意義のある場となりました。吹田市以外からも、行政の方をはじめ多くの聴講者の方々にご参加いただき、こうした試みが日常的に広がることで、地域や社会がよりよく変化していくことと感じたひとときでした。

~~~~~



はじめに、3人の子ども達のお父様でもある市長から、子育てに対する思いや、子育て支援に対する吹田市の取り組みについて、お話をいただきました。

27歳で結婚して、子供を3人授かりました。出産と授乳以外の子育ては父親にもできると思い、妻の手伝いという立場ではなく、可能な限り一緒に力を合わせてきたつもりです。心がけていたのは、妻とよく話して意思の疎通をすること。そして子供にアドバイスしたいことが1つある時は、まず3つ褒めることです。相手の良さを理解せずに、本当の意味でのアドバイスはできません。

とはいえ、相手を褒めるという行為も、自分が追い詰められた状態にあると困難です。特にお子さんと長時間一緒にいる専業主婦の方は、少しの時間でも親子分離することで、たまったストレスの軽減が必要です。例えば美容院、友人とランチ、ちょっと買い物などの息抜きは、3時間もあればできることです。お母さんがストレスをためずに子育てできるよう、多くの沈黙している方々の言葉を拾い上げるのが、行政の仕事だと考えています。 **吹田市としての取り組みの一例**は、次のようなものです。

- 市内56カ所にある保育所の待機児童を、3年でゼロに
- 子育て広場や家庭訪問の、現場ニーズとのマッチングを高めたい
- 児童虐待防止の取り組み（吹田市オリジナルのダブルリボン）
- 子供医療費の助成（所得制限を撤廃）
- 病児・病後児保育、障害児保育の充実
- 地域での子育て体制の充実

この中でも大切にしたいのは、地域での子育て体制です。今までは社会、家族、個人に割り振られてきた子育てというものを、地域で支える人が増えています。これからの行政の役割は、子育て世代を直接支えることはもちろんですが、地域でそれを支える支援者をお支えすることが大切だと考えています。幸い吹田市は地域力の強いエリアなので、市民の方々から現場の声をいただいて対応していきたいと思えます。

~~~~~

次に、10人の子育て中の吹田市民の方々から、市長に聞きたいことや提案したいことを伺いました。



👉 「子育て当事者が考える、地域活性化の支援について」

戎さん（元大阪市立男女共同参画センター長）

地域とつながることが、楽しい子育てを続けていくことの秘訣だと考えています。関西大学と提携して、日本で初めて大学内のスペースをお借りして、大学とママとキッズがつながるイベント「ママまつり」を企画しています。今後は行政とも協力し合いながら、地域が楽しめるつながりができればと思っています。

👉 「公民館に、保育付き講座を増やしたい」

Uさん（福祉委員 公民館企画運営委員）

利便性や安さの点では、公民館はとても利用しやすい施設です。年配の方は楽しそうに利用されてる方が多いですが、子連れのお母さんは敷居が高く感じているようです。若いお母さんに公民館をもっと利用してもらう試みを増やしたいです。

👉 「学童保育を充実してほしい」

松野さん（主婦）

吹田市には、親が働いていない子供でも、無料で5時まで預かってくれる学童があるから助かっていますが、学童を利用していない子が、学童に通う子と学校と一緒に遊べない点や、高学年の利用が不可な点を改善してほしいです。夏休みなどの長期休暇に親がフルタイムの仕事で不在の場合、日中の子供の過ごし方を心配している親御さんもいらっしゃいます。毎日友達の家遊びに行けとも、暑いから外で遊べとも言えず、習い事があっても夕方の時間帯になります。高学年でも学童の必要性を感じています。

👉 「ママの産後ケアの必要性について」

源さん（子供会副会長）

4人の子供がおり仕事もしているので、ご近所や地域ぐるみでの子育てに支えられてきました。また、里帰り出産をしていないため産後も大変でした。少しの時間、預かるというサポートの大切さはもちろんで

すが、子育て支援の目線を産前産後の層にまで向けて、何かできないかなと思っています。

「一時保育の充実について」

山藤さん（主婦）

多くの専業主婦は、たくさんのことを望んでいるわけではなく「ちょっと2時間だけみてほしい」といったことに救われます。地域のママ同士で集まって、互いの子供を預かりあう見守り保育なども考えましたが、安全安心の点で問題もあるかと思います。子育て世代が集まりやすいよう、何より自分と子供がそのことで楽しく過ごしやすいよう、自宅もリフォームしたのですが、そうした場に行政の方に何らかの形で関わっていただくこともできるのかな、と思っています。

「父親の育児参加支援について考えを伺いたい」

榎田さん（主婦）

父親は仕事の忙しさなどで、育児に関わりたくてもかなわないという葛藤があります。家族のあり方や子育てについて、夫婦できちんと話し合える環境があればいいですが、そんな時間を取ることも難しい場合も多いです。企業努力だけでは父親が働く環境の改善は難しく、行政の協力も必要だと感じています。

「待機児童を改善してほしい」

Kさん（会社員）

働いている妻が出産の折に、退職するかどうかの岐路にも立ちましたが、保育所に入所できたことで解決しました。ですが、2人目が欲しくても待機児童の問題があり、確実に入所できるという保証がないままでは、子作りに踏み切る気持ちになれません。とはいえ人生で子供を作れる時期は限られているので、待機児童の解消を待ってられないというのが正直な気持ちです。

「子育て中の母親の重責について」

Aさん（児童養護施設職員）

私にも子供がいますが、妻ではなく私が子連れで出かけると、それだけで「パパ偉いわねー」と知らない人にも褒められます。父親は褒められて母親は当たり前、という子育ての風潮に違和感があります。母親を褒めてねぎらうことが、防止にもつながる大切なことだと感じています。児童養護施設の入所理由は、60%が虐待によるものです。母親の重責を軽減するための試みを、施設と吹田市が一体となって進めていければと思っています。

「CAPプログラム（児童虐待防止）を学校で受けられるように」

柳谷さん（おやこひろば桜梅桃李主催）

虐待は、発生した後のケアも大切ですが、発生防止の取り組みも不可欠です。特に性暴力被害は体の傷と違って見えにくいですが、自己肯定感や自尊心が低くなるため、社会に適応できないまま大人になって、

生活保護を受けている人も少なくありません。また、身近な人物が加害者であるケースも多いので、大人も子供も発生防止の知識を学ぶことが必要です。被害者を未然に防げば、将来的には福祉予算の縮小にもつながると考えています。

👉 「0歳児がいても、男女共同参画センターや公的施設の講座に参加したい」

村上さん（ママGOGO代表）

吹田市の男女共同参画センターや一部の公民館では、1歳児から預かっていただける保育付きの講座があり助かっています。ただ、きょうだいを子育て中のお母さんの場合、上の子が預かり年齢に達していても、下の子が0歳児なら結局参加できません。育児が一番辛いのは下の子が0歳児の時なので、その折に利用できたらと願っています。女性活躍推進の位置づけからも、ぜひDUOからお願いできれば。また、H24年度もH25年度も、吹田市の29の公民館のうち保育付きの講座を行っているのは3館です。ぜひもっと増やしていただき、子育て中のママにも生涯学習の機会をいただきたく。地域にそうした場を創っていただくことで、子どもを預けることへのお母さんの罪悪感が軽減され、育児負担も減ると感じています。

~~~~~



最後に、市民の皆さんからの質問やご意見を受けて、市長のお考えを聞かせていただきました。お忙しいなか、予定を延長していただいたお話です。

なお、コーディネーターからの次回実施についてのご提案をいただき、テーマを絞っての実施をご検討下さるそうです。

核家族化が進んでいなかった昔と今とで、お母さんが受けているストレスは違うと感じました。核家族化で得たものは、親や親族と密着せずすむ自由ですが、一方で負わなければならないリスクとして浮上しているのは、子供を簡単に預けられない点です。女性の就業率に対して社会の制度が追いついていない部分は、NPOなどが自主的に行っている支援が補っているのが現状です。さらに、たとえば今では「学校や幼稚園が騒音でうるさい」として、迷惑施設としてとらえられたりもします。行政はそうした声にも対応していく必要があるため、訴訟やリスクを避け萎縮する傾向にあります。とはいえやはり、現場の声をいただくと、現状での改善点は多くあるように感じます。

例えば、待機児童を改善するために保育所を増やしたとしても、保育士不足による運営困難な点をどうしていくか。一般に学童保育と言われる制度も、実は管轄が2つに分かれており、この二重行政状態をどうしていくか。産前産後のサポートについては、東京の世田谷区では、家事や身の回りのことを代行してくれるチケットが配布されています。こうしたモデルケースを参考にできないか。父親たちの意識改善も大切で、1分あれば少し部屋を片付けることもできるし、奥さんに「ありがとう」と伝えるだけなら5秒もかかりません。最近は貧困問題も多く叫ばれており、そこからの脱出は行政の力が不可欠でしょう。

今日お越しの皆さんのように、忙しくてもしんどくても前を向いていらっしゃる方以前の、もっと前段

階の基盤の部分を整備するのが、行政の責任です。しんどかった方が前を向くゆとりができれば、ぜひ皆さんのような地域力やNPOのお力をお貸しいただきたい。

家庭内での意識や価値観を変えるには3世代かかるとも言われており、100年スパンでの計画が必要です。子供を育てる場としての家庭を長い目で見守る中、いかに行政が委縮せず動いていけるかは、今後の大きな課題です。今日は市民の皆さんと直接対話し、子育てで非常にお忙しい中、前を向き続けるエネルギーはどこからわいているのだろうと驚き、そこに解決の秘密があるように思いました。ぜひ今後も、「こんなサービスがあればいいな」などのご要望を、ぜひメールなどでお知らせいただきたいです。今後のヒントとして、しっかり活用させていただきたいと思っています。

~~~~~



合計42名(途中退席者含む)

【行政視察】大阪市生野区副区長ほか2名さま

【吹田市議会議員のみなさま】

足立さん(吹田新選会)、池淵さん(すいた市民自治)、五十川さん(吹田いきいき市民ネットワーク)、倉沢さん(日本共産党)、後藤さん(吹田新選会)、里野さん(自由民主党絆の会)、澤田直己さん(自由民主党絆の会)、玉井さん(日本共産党)、松谷さん(大阪維新の会)

【オブザーバー】

吹田市ボランティア連絡会役員のみなさま、子育て支援の大先輩方、その他、応援してくださっているみなさま。大勢の方にお越しいただき、誠にありがとうございました。

最後に、会場設営ほか多大なるご協力を賜りました宮所長はじめ未来館のみなさまに心より感謝致します。

文責：村上佐和子(ママGOGO代表)